

1. プログラムの自己点検・評価の組織

常葉大学 教養教育運営委員会

2. 到達目標

ICTを利活用した課題解決のための基礎的素養と、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な理解力を修得すること。

3. 対象科目

教養教育科目

情報リテラシーⅠ（AI活用を含む）／必修・前期、情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）／必修・後期

4. 点検・評価結果

自己点検・評価の視点	取組み状況と評価
プログラムの履修・修得状況	文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育（以下、MDASH）のプログラム認定制度の対象科目として、令和7年度より1年次教養教育科目の「情報リテラシーⅠ（AI活用を含む）」、「情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）」を開講している。令和7年度8月時点で、前期に開講された「情報リテラシーⅠ（AI活用を含む）」は、履修者数2015名、修了者数1911名（単位修得率：94.9%）の結果であった。なお、「情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）」は、後期に開講予定である。
到達目標と授業計画および学修成果	「情報リテラシーⅠ（AI活用を含む）」、「情報リテラシーⅡ（数理・DSを含む）」の具体的な到達目標と授業計画はシラバスに明記し、インターネットにより公開している。以下に示す学生アンケート等、および当該授業を担当する教員へのアンケート調査の結果から、シラバスに記載の到達目標は概ね達成したことが示唆される。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	2025年度前期に開講した「情報リテラシーⅠ（AI活用を含む）」に関して、履修者2,015名を対象に、授業内容の理解度や満足度を把握するために、授業アンケートを実施した。回答者数は1,002名であり、回答率は49.7%であった。はじめに、5段階のリッカート尺度の定量的な評価について、授業内容の理解度に関する設問「授業内容について理解できましたか？（5段階評価）」に対しては、平均値4.01（SD 0.90）であった。これは、多くの学生が授業内容を概ね理解していることを示しており、授業設計および教材構成が適切であったと評価できる。次に、「AIを学ぶ楽しさや、学ぶことの意義を理解できましたか？（5段階評価）」という設問に対しても、平均値4.01（SD 0.97）という結果が得られた。AIという先端的なテーマに対して、学生が興味を持ち、学習の意義を感じていると考えられる。 次に回答任意の項目として、自由意見の回答を求め、テキストマイニングの手法により頻出語抽出およびカテゴリ分類の分析した総括は、次の通りである。本授業は学生にとって有意義であり、学習意欲を高める内容であったと評価できる一方で、授業の進行速度や環境面に関する改善要望も見られた。これらの意見を踏まえ、今後の授業設計においては、進行ペースの調整や教材のさらなる工夫、学習環境の整備を検討する必要がある。 以上の結果から、本授業は学生の理解促進および学習意欲の喚起において一定の成果を上げていると評価できる。今後も学生のニーズを的確に捉えつつ、数理・DS・AIに関する教育効果の向上・進化を検討する必要がある。

学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生アンケートの「後輩等他の学生に対して本授業を推奨したいと思いますか？（5段階評価）」という設問では、平均値4.11（SD 1.01）という結果であった。これは、授業に対する満足度が高く、学生間での推奨意向も強いことを示している。
当該授業を担当する教員に対するアンケート結果	授業におけるMDASHの内容の取り入れ状況について、教員を対象にアンケート（選択式）を実施した。その結果、「十分に取り入れた」と回答した教員が9名、「少し取り入れた」が7名、「あまり取り入れなかった」「まったく取り入れなかった」は0名、「その他」が2名であった。これらの結果から、本授業では一定程度以上、MDASHの要素を取り入れることができたと評価できる。特に「十分に取り入れた」「少し取り入れた」と回答した教員が全体の約89.5%を占めており、教育内容としての有効性が示唆される。次に、授業内で取り扱ったMDASHに関する学生の理解度について評価を行った結果、「十分に理解していた」との回答が4件、「少し理解していた」が12件、「あまり理解できていなかった」「まったく理解できていなかった」は0件であり、「その他」が2件であった。この結果から、教員の認識としては、学生の多くが一定程度の理解を示していたと評価されている。特に「理解していた」とする回答が全体の約80%を占めており、授業内容が学生に適切に伝わっていたことが示唆される。 また、担当科目の質向上にむけて、静岡大学数理・データサイエンス初級講座や、東海デジタル人材育成プラットフォームセミナーなど各種講座やセミナーの案内を教養教育運営委員から適宜配信し、情報を共有している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数と履修率向上に関して、情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは1年次の開講科目として必修科目であり、文系理系問わず全学生が履修するため、履修率は常に100%となる。

5. 学外からの視点

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学では定期的に進路調査を実施しており、MDASHのプログラムを修了した卒業生の進路状況を把握している（キャリアサポートセンター）。今後の予定として、MDASHのプログラム修了者が就職した企業に対して活躍状況、評価を実施する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	令和7年度に実施した外部評価委員会（県内の商工会および企業等の有識者を構成員に含む）において、「企業のDX人材に求められるのは、生成AIなどの技術の細かな操作よりも、急速な変化に柔軟に対応できる力であり、特に若年層への期待が高まっている」との意見が示された。対して、大学側の回答として「大学としては、授業においてソフトウェアの操作方法を扱う際、バージョンの更新により機能や操作が変化することを前提に説明しており、操作方法の習得にとどまらず、各ソフトウェアの目的や可能性を理解する力を育むことを重視して授業を設計している」という内容を回答した。 引き続き、MDASHプログラムの取組みについて学外からの意見を求め、当該プログラムの改善・進化に活かす予定である。